

## 野球で学ぶ

私は高校時代の甲子園3度出場，社会人野球で受けた戦力外通告，一から勉強をやり直して入学した大学，3つの出来事を経験しました。これが私の野球観の土台になっています。

中学卒業後，私は私立秋田経済法科大学附属高等学校（現 明桜高校）に入学し，野球部に入部しました。監督さんの猛ノックを泣きながら受けていました。あの辛さに耐えたのだから少々の事には耐えられると今でも思います。挨拶の仕方，礼儀作法，言葉遣い，目配りと気配りなどチームの一員として必須の習慣をきちんと身につけてはじめて甲子園への道が開かれることを学びました。甲子園の大観衆から声援を受けてプレーしたことを思い出します。

高校卒業後，住友金属鹿島（現 新日鐵住金鹿島）に入社し，硬式野球部に入部しました。社会人野球は自社のチームに社運を懸けて戦う集団・組織です。勝利に対する執念は凄まじく，一球・一打・一投足に社運を懸けています。勝利至上主義の意味を学びました。

しかし，社会人野球では3年で戦力外通告を受け，挫折を経験しました。社会人野球での私は野球の技術が未熟だったと痛感しています。そこで私は，野球しか知らない無知な人間だったことに気づかされます。もう1度自分の人生を見つめ直そうと，仕事を続けながら通信制の大学で学びました。学費は自分の給料で払いました。仕事と学業の両立は困難で1年間は何も手につかず，無駄な1年間を過ごしてしまいました。そこで，「教師になって高校野球の監督になる」という目標を決めました。目標が出来ると余暇時間はレポート作成，夜勤を終えると授業を受けて仮眠し，また夜勤，ひたすら勉強に没頭しました。中学・高校時代には敬遠していた勉強が面白くなりました。「やれば出来る」「成せば成る」という言葉があります。目標を持つことがいかに大切であるかを身をもって体験しました。

野球は「感性」が大事だと思います。社会人野球時代選手としてチームに貢献出来ませんでした。監督とは何か？コーチとは何か？など指導者の観点から野球を学ぶことができませんでした。なぜこの作戦だったのか？なぜこの選手起用だったのか？なぜこの練習だったのか？と考えた時，ただ直感だけで決めているのではなく，選手を多方面から観察して背景まで追求し，根拠をしっかりと突き詰めて決断することの大切さも学びました。また，練習・試合・私生活などを通して選手同士の理解を深めるようにしていました。お互いの行動を深く観ることで感性が磨かれて豊かになり，チーム全体の感性力となって勝利に結びついていくように感じました。感性を養うことが私の野球観の礎になっています。

東風高校野球部は，練習試合でも公式試合でも「勝ち」に執着します。強い信念を持って貪欲に勝ちを求めます。ただ「勝つぞ」という精神論だけではなく，勝つために何をしなければならぬかを選手，マネージャーとともに議論しています。東風高校野球部はみんなまで話し合うことを大切にしています。

東風高校野球部は野球ノートも大切にしています。部員一人ひとりが野球ノートに長期目標、中期目標、短期目標を書いています。長期目標は個々人の将来の夢から始まり、中期目標ではその夢の実現のために今、チームとして何をしなければならないかを決め、短期目標は1週間の目標、1日の活動計画を記し、その達成度と成果を記入してどのような1日だったかを見つめ直し、振り返っています。提出された野球ノートに目を通して見ると、どのような気持ちで何を意識して野球に取り組んでいるか、野球とどう向き合っているかが分かります。野球ノートに短いコメントを記し、アドバイスをしたり励ましたりしています。一人ひとりの生活の様子も感じ取ることができます。

雨の日は座学をします。ある日のテーマは「作戦の確率」でした。道徳の授業で学んだKJ法を活用して議論しました。選手たちは目を輝かせて議論を戦わせ、部員全員が「作戦の確率」について理解し、お互いの意見や考えを共有することができました。

挨拶・礼儀・規律・チームワーク・助け合いも重視します。一人の力には限界があるからです。一人ひとりが協働意識を持って野球に取り組むことが勝利に繋がるからです。野球部員はバス停、最寄り駅、学校周辺のゴミ拾い、地域のボランティアなどの奉仕活動を積極的に行っています。それが社会に貢献できる人材育成に繋がるからです。

東風高校野球部はこのように一人ひとりの意見・考えを重視して、勝つ野球、人格の陶冶を目指しています。

つくば国際大学東風高等学校  
硬式野球部監督 桜庭 裕也  
(平成20年4月就任)